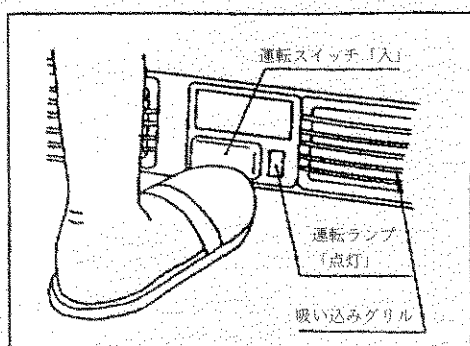


§ 8. 使用方法と使用上の注意事項

1. 使用方法

(1) 「運転」のしかた



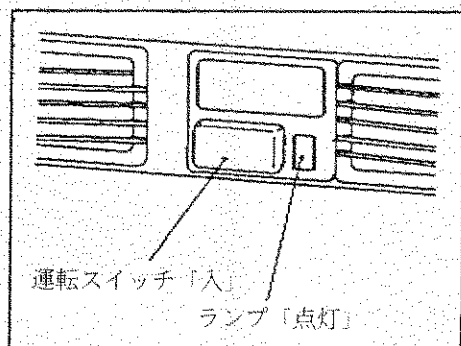
- ① 熱源機を運転し、温水を流します。
〔熱源機が連動運転できる場合は②の操作によって連動できます。〕
- ② 運転スイッチを「入」にしてください。

運転時のご注意

- ・運転にしても温水温度が低い場合や温水が流れていない場合は、「冷風防止」機構が作動して運転を停止しています。温水温度が上昇し温水が流れますと自動的に運転されます。
- ・熱源機に添付してある「取扱説明書」をよくお読みになってください。

(2) 凍結防止運転について

冬期外気温が0℃以下になりますと熱交換器や温水回路、ボイラー内が凍結し、配管などが破損することがあります。必ずつぎのような方法で凍結防止を行なってください。



- ・必ずシステムに適合した凍結防止策を実施してください。
- ・熱源機でポンプ運転できる場合は、水を循環させてください。
- ・運転スイッチを「入」にして放熱器内の水を循環させておいてください。
- ・特に寒い地域では、熱源機の暖房運転を行ってください。
- ・厳寒期に長時間使用しないで放置する場合は暖房回路の水を抜いてください。

ポンプ運転のできない場合

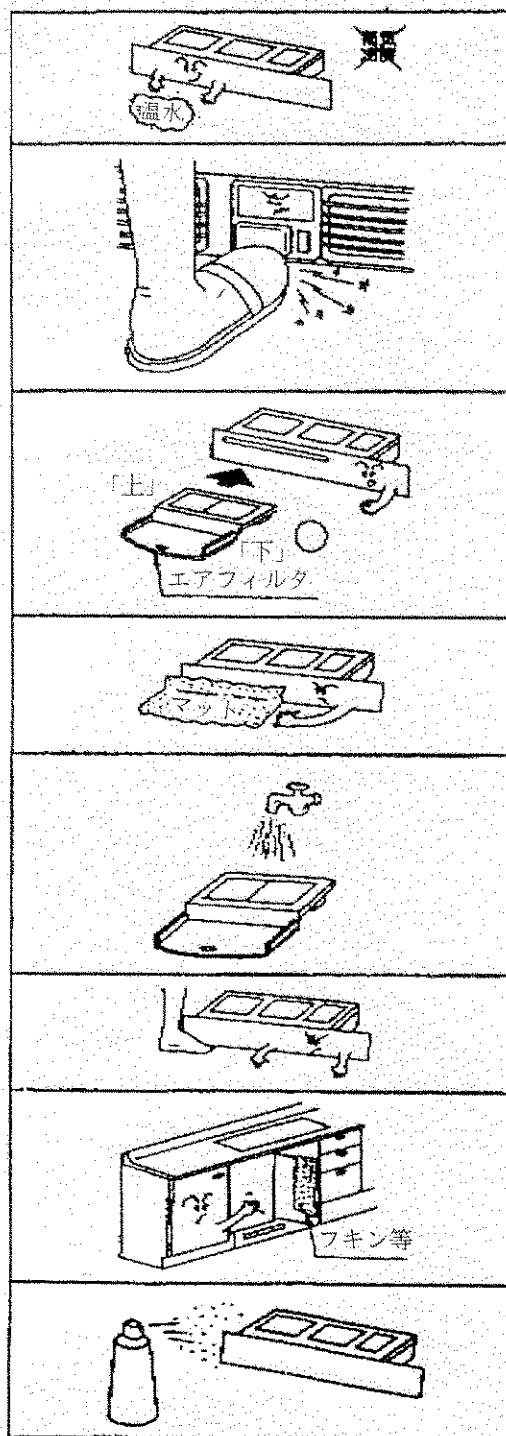
暖房水の中に不凍液を注入することで凍結が防止できます。この場合は器具を操作する必要はありません。不凍液の注入は必ずお買い求めの販売店、サービスショップにおまかせください。

ご 注 意

凍結防止対策として、不凍液を使用している場合（暖房パックシステム）は、上記の操作は不要です。放熱器を長時間運転しないときも水抜きはしないでください。

(3) 特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。



・蒸気暖房や冷房用には、使用できません。

このファンコンベクターは、温水暖房専用です。

・運転スイッチを必要以上の強い力で、けり込まないでください。

・エアフィルタは「上」「下」の区別があります。「上」「下」を間違えないように取付けてください。取付け方法を間違えますと暖房効果が低下したりエアフィルタに足が当たる場合があります。

・吹き出し・吸い込みグリル前面に物を置かないでください。暖房効果が落ちるばかりかファンコンベクター本体にも悪影響をおよぼします。

・エアフィルタに大量のほこりが付着しますと暖房効果が減じます。

「日常の点検・手入れ」の項に従って掃除を行なってください。

・温水循環時には、グリル吹出部に直接素足を触れないようご注意ください。

・流し台・洗面台の扉を開けたまま使用しないでください。又、扉にフキンを吊す等暖房以外の使用はしないでください。

・スプレー缶（殺虫剤、ヘアースプレー等）を器具の前方1m以内に置かないでください。熱で圧力が上がり爆発する恐れがあります。

§ 9. 日常の点検・お手入れ

1. シーズン中

(1) エアフィルタの清掃（1週間に1回）

エアフィルタは空気中のゴミやホコリを取り除くものです。このエアフィルタにゴミやホコリがたまると風量が減って能力が低下したり運転音が大きくなりますのでシーズン始めには必ず清掃してください。またシーズン中もこまめに清掃してください。

① エアフィルタのはずしかた

- ・エアフィルタは吹き出しグリルの最上部にセットされています。（グリルの最上部横機がエアフィルタです。）

エアフィルタの把手を手前に引いて下さい。

② 清掃のしかた

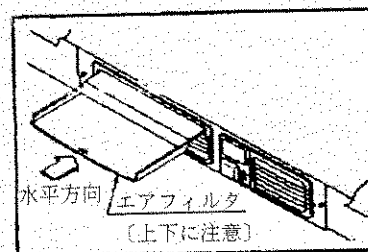
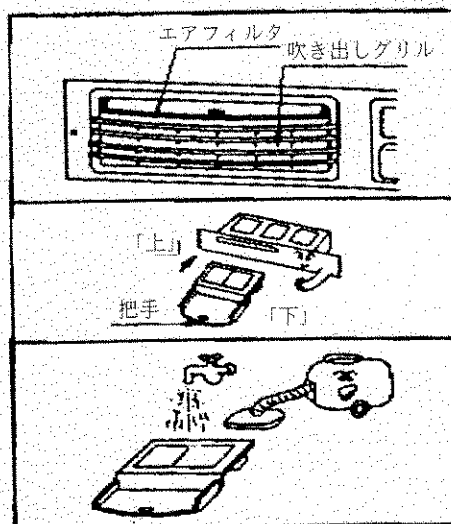
- ・ごみを電気掃除機で掃除するか、水又は台所用洗剤で洗いおとしてください。

50℃以上のお湯は使用しないでください。

- ・エアフィルタを日陰で十分乾燥させてから取付けてください。

（注）エアフィルタをスムーズに出入れするためエアフィルタの移動は水平に行なって下さい。

（注）エアフィルタの取付けに当っては、「上」「下」を間違えないように取付けてください。



(2) グリルのお手入れ

汚れがひどいときには石けん水をしみ込ませた布でふいてから、あとをよくからぶきしてください。

① 吹き出し・吸い込みグリルのはずしかた

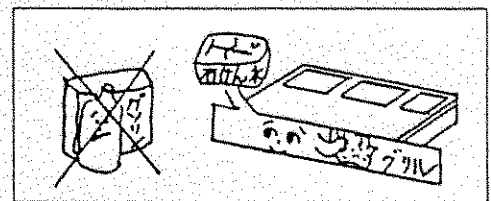
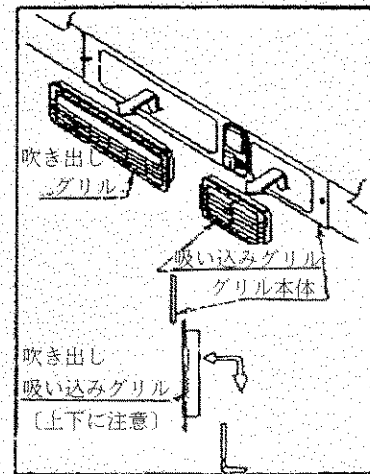
- ・一旦、上に持ち上げてから手前に引出してください。

② 吹き出し・吸い込みグリルの取付けかた

- ・吹き出し・（吸い込み）グリルを切欠最上部位置で切欠に挿入後、下に降ろして固定してください。

（注）取付時に「上」「下」を間違えぬようにしてください。

（グリル裏面に「上」「下」の文字が刻印してあります。）



ご 注 意

- ・ガソリン、ベンジン、シンナーなどの薬品でふいたり、市販の液状殺虫剤などをかけないでください。化学変化をおこし、製品を著しくいためることがあります。
- ・外装の汚れをふきとるときは50℃以上のお湯を使用しないでください。変形や変色したりすることがあります。

2. シーズン終了時または長期間運転しない場合

エアフィルタは清掃してからもとどおり放熱器に取付けておいてください。

3. 点 検 整 備

ご使用状態によってもかわりますが、放熱器を数シーズンご使用になりますと、内部が汚れ能力が低下することがあり、通常のお手入れとは別に点検整備をおすすめします。

点検整備はお買い上げのサービスショップ（販売店またはガス会社）にご相談ください。

なお、この場合は実費が必要です。